◎　教えるとは、「希望を語る」こと。学ぶとは、「誠実を胸に刻む」こと。（ルイ・アラゴン）

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1312　2024/11/21（Thu ）

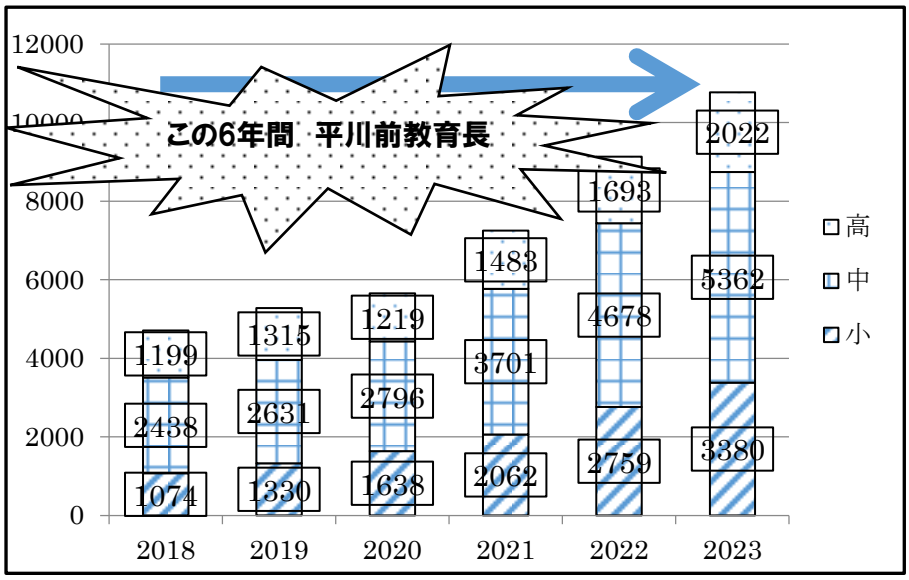
発行　　広島高校連絡会事務局
Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp
HP　http:// ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/
携帯 090－1180－7644（村井義幸）
090－9738－8264（望月照巳）

教育関連　気になる News　2件

その1　広島県　不登校の児童生徒数が１万人超える　過去最多

小学生は２割増

文科省「児童生徒の問題行動・不登校調査」で、昨年度、広島県内の学校の不登校の児童生徒数が 1 万人を超え、小学生では２割以上、増加したことがわかりました。



【図を見る】
不登校の児童生徒数が 1 万人超える過去最多　小学生は２割増の広島
文科省「児童生徒の問題行動・不登校調査」より、なお、この調査には特別支援学校のデータはありません。

それによると、県内の不登校の児童生徒数は、小・中・高等学校の合計が 1 万 764 人で、前年度に比べ 17.9 %増加し、過去最多となりました。このうち小学生は 3380 人で、前年度比で 22.5%増加しました。

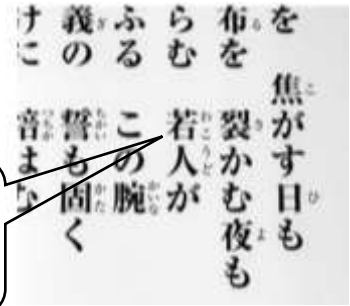
県教委の篠田智志教育長は、「これまでの成功事例や取り組みの中での参考事例などをもとに、連携して支援に当たる」「子どもたちが学校に行けなくなるという、何らかのきっかけがあると思う。子どもたちに寄り添った、丁寧な対応をしていくことが必要だと思う」と記者会見で述べただけです。

また、暴力行為の発生件数も、小・中・高等学校の合計が 3920 件。前年度比 10.8%増加の過去最多となりました。

これが、平川前教育長の PR する成果なのでしょうか。子どもたちが悲鳴を上げ続けています。ICT 教育どころではない喫緊の教育課題ではないでしょうか。

その２　海上保安大の校歌から消えた歌詞

**********「男子限定」の違和感が生んだ変化*******



益荒男（ますらを）が
消えて「若人」（わこうど）に

海上保安庁の幹部を養成する海上保安大学校（広島県）の校歌から、ある歌詞が別の言葉に差し替わった。60 年以上の歴史で初となる変更の背景には、海保内でのある「変化」があった。　海保大の歌詞が作られたのは 1956 年。開校 5 周年を記念して当時の教官が作詞した。以来、一度も歌詞は変わらないまま、卒業式と入学式で学生たちによって歌われてきた。

炎天檣（ますと）を　焦がす日も　疾風帆布（しっぷうせーる）を　裂かむ夜も　海を護（まも）らむ　**ますらを**が校歌の 2 番の冒頭は、「マスト」や「セール」といった船に絡む言葉を使い、試練の中でも海を守るという海上保安官の

姿勢を示しているものと思われます。

ますらーを【益荒男・丈夫】りっぱな男。勇気のある強い男。

その２の2　宝塚音楽学校「募集要項」から、「容姿端麗」を削除

また、宝塚歌劇団の俳優養成機関「宝塚音楽学校」は、来季の募集要項から「容姿端麗」の文言を削除した。同校は例年女性のみ約40人を募集している。（倍率は、過去最低の12倍で、２０００年以降）

進まぬ選択的夫婦別姓、しかし、歴史は確実にジェンダー平等の世界に動いています。教育の世界も「男子校」「女子校」「女子大学」などが教育の自由、私学教育の自由などでいつまでも残ることに疑問を感じるのは、私一人でしょうか。

会文録

▼「次は勝つ」の意志を持ち続けることの大切さを確認したいのです▼私は、あの是正指導に際して、「少なくともこれまでの『解同』支配の学校状況より、改善されるだろう」と考え、あの混乱の過程で、「解放教育」と合わせて「平和教育」が消えてしまったことや、職員会議の位置づけが、それまでの誤った「最高決議機関」から、学校長の「諮問機関」に変化したことや、「生徒会」指導部が、生徒指導部の中の生徒会係に格下げになったこと。さらには、分掌の主任を校長の一方的な任命制度としたこと。等々多くの管理的な再編成に対して、抵抗や異議申し立てをしませんでした▼それは、今から見直してみるならば、傍観者的な日和見的態度であり、その後の新自由主義路線を容認したことになって行きました▼それは、長年の学校での非民主的運営による徹底的な差別的扱いに対して、抵抗はするけれど、「何時か勝つ」「次は勝つ」との姿勢が欠けていて、「野党根性」に堕していたことだと思っています▼正に「是正指導」の瞬間は、私たちこそが、それまでの批判から、主人公へと飛躍できた時期だったのではなかったでしょうか。

2024/11/14